R7 楡木小学校　学校通信
No. 9
なりたい自分になる！
In 楡木サラダボウル
令和７年５月２７日
文責　余宮

運動会を盛会に終わることができたのも、本当に保護者の皆様方のご支援のおかげさまです。

結局、一所懸命が一番心を動かす

雨のために一日順延になった運動会が終わりました。お家の方には様々な面でのご支援をいただき、大変ありがとうございました。何より、ご家庭でのご支援が、子どもたちの心の支えになったことでしょう。希望も悩みも不安も、十人十色。微に入り細にわたりお子さんを見守っていただき、心から感謝申し上げます。

そのご支援の上で、各学年では個性的で素敵な運動表現が繰り広げられました。手前みそではありますが、本校の先生方のアイディアや工夫も素敵だったなあ。何かの機会にでも、本校の先生方に声をかけていただければ幸いです。

もちろん、子どもたちの頑張りが何よりの運動会の成果。様々な場面で、努力の上に咲かせた花は、本当に色とりどりで素敵でしたね。その中でも、小学校最後の運動会になる６年生の演技は、本当に心を動かされました。実は、練習最終日（23 日）最後の練習が行われた時にも胸が熱くなる瞬間がありました。

一所懸命なんです。みんな。

この一所懸命さは、常に過程に刻まれています。あんなに自由闊達に踊っていた６年生ですが、練習初日には日常とは違う動きに翻弄され、しどろもどろの動きしかできなかった。時には、私の部屋まで弱音を吐露するお子さんも。

「あんな動き、できないよ。その上、結構きついんですよ」

そうだよね。きついよね。

でも、だんだん自分の体をうまく操れるようになり、声も大きく出てきて。でもでも、友達の方が自分より上手に見えて、時には焦ったり、時には落ち込んだり。よく話をしに来てくれました。

そうだよね。落ち込むこともあるよね。

だんだん、自信が出てきたのか、私の部屋で踊ってくれるお子さんや、あえて練習を見に来てほしいと呼びに来てくれるお子さんも。

そのひたむきで一所懸命な努力の過程に、私は心を動かされました。

今回は紙面の都合上、６年生を中心に取り上げましたが、もちろん各学年や応援団などの取り組みにも、色とりどりの一所懸命さの足跡が随所にみられています。まさに、運動会の醍醐味です。

運動会は、特別活動の一つです。その特別活動の特徴が「なすことによって学ぶ」。まさに、なすことによって学ぶ、という行事の特性がよく表れた楡木らしい運動会だった。

「最後まであきらめない運動会」というスローガン通り、歩む過程そのものに着目し、一所懸命に自分らしく取り組みました。一人ひとりに個性的な学びが、また深く刻まれたことでしょう。そんな一所懸命な取り組みをしてくれた子どもたちに、大拍手を送りたい。

また、明日からも一所懸命に頑張る君たちを心から応援したい、と強く思いました。

改めて、保護者の皆様には、雨天順延にもかかわらず、多くの方々に準備から応援、そして後片付けまで大変お世話になりました。ありがとうございました。